

平成20年度鈴鹿市立長太幼稚園経営計画

1. 前年度における園計画の反省と地域・園児の実態

- 前年度は、さまざまな人との出会いを通じた豊かな心の育成「せかいへ・・・輝け ひとみ」を研修主題とし、家庭から小学校、地域、遠くは外国へに目を向け、さまざまな人との出会いの機会をもてるように研修を進めてきた。

外国の人との触れ合いを通して、様々な表現の仕方や人間性に触れ、外国への興味や関心が高まってきた。また、様々な国の人と五感を通じた直接体験をする出会いの場を設け、違いを違いとして認め、自分とは違った言語・文化など、多様性に触れることで豊かな心の育成を目指していきたい。

- 当地域は、かつては自然に恵まれ穏やかな純農村地帯であったが、北勢工業地帯の住宅地として開発されてきた。そのピークは過ぎたものの、現在も宅地造成が進んでいる。

古き良き伝統を大切にし、新しいものを取り入れようとする地域性が培われている。住民の教育に対する関心は高く、幼稚園教育に対する理解と協力の度合いは高い。

- 園児36名中、30名が市・私立保育所、市・私立幼稚園で1～3年の集団生活を経験し、出身園は8園に及んでいる。2名の園児は、初めての集団生活である。
- 園児の全体的な傾向は、無邪気で明るい、自分の思いを素直に表現できなかったり、思ったことや考えたことを素直に言葉でうまく表現できない幼児の姿もみられる。

2 園教育目標

豊かな心を持ち、たくましく生きる子ども

- のびのびと表現し、自ら進んで活動する意欲的な子ども
- 友達や身近な人とかかわり合い、豊かな心をもつ子ども
- 基本的な生活習慣を身につけ、たくましい心と体をもった子ども

3 園経営方針

- 一人一人の幼児を大切にし、明るく生き生きとした園・学級づくりに努め、環境整備の充実に努める。
- 園だより、クラスだより・個別懇談会・地区懇談会などの機会を通して、幼児教育の啓蒙と安全教育の徹底を図る。
- 専門職としての力量を高めるために、常に幅広い研修に努め、指導力の向上・保育の充実に努める。
- 地域・外国・長太小学校の人々と触れ合う機会や場を設け、活力と創意に満ちた園づくりに努める、小学校教育と連携を密にして、相互理解と信頼に基づいた幼少連携を図り、そのための教育的環境づくりに努める。
- 全職員一体となった協力体制の確立に努める。

4 本年度の努力目標と達成方策

- 幼児一人一人の実態を把握して、主体的に活動できるよう環境の整備工夫と教材研究に努める。
- 幼児のいろいろな感情体験を大切に受け止め、やさしさや思いやりの心を育てるように努める。
- 地域・小学校・外国の人々・未就園児の親子など、様々な人と触れ合う機会を設け、人とかかわる力を育てるように努める。
- 家庭との連携を図り、望ましい生活習慣や態度を未につけるよう努める。
- 園を開放したり、様々な人との触れ合いを通して、開かれた園づくりに努める。

